



月報

幸中タイムズ

平成23年7月19日(火)

第92号

幸田町立幸田中学校・発行

重なる風景

校長 権田 幹夫

7月に入り、連日猛暑続きだった1学期も明日で終了ですが、今年の1学期は、意識の中では確実にいつもとは異なった1学期だったように感じています。3月11日は、今まで当たり前のように流れていた日常の人、事、ものについて改めて考え、感じるスタートの日となりました。とりわけ、「ガンバレ日本」を合い言葉に、「共感の共同体」として日本全体が国、地方、住んでいる地域や学校を強く意識するようになったように感じています。そうした意識は今まで忘れかけていたことでもあり、良い方向のように感じるのですが、こうした時だからこそムードに流されることなく、地に足をしっかりとつけて身近な共同体を大切にしなければと思うのです。

生徒たちも毎日の授業、部活動、修学旅行や職場体験といった行事が、貴重な時間の連続であることに生徒たちなりに気づき、感謝の気持ちで過ごそうとしている声を多く聞くことができました。

ところで、校内に掲示されている写真の中で私の一番のお気に入りには今年の春季大会閉会式直後の「チーム幸中」とタイトルのつけられた集合写真です。全校で勝ち取ったという自信と誇りがあふれ生徒も職員も含めて全員の目が輝いています。この写真を見るにつけ、いつも重なる風景があります。それは、今までの卒業生を含めて、毎日のさわやかなあいさつや無言清掃、落ち着いた授業や真剣な部活動、心をひとつにした全校「島唄ダンス」や全校合唱「明日」といった幸田中の確かな一コマ一コマの風景です。「チーム幸中」の姿はこうした今までの風景がなければあり得ないと思うのです。

なでしこジャパンのワールドカップ優勝の興奮がまださめやらない状況ですが、あの最後まで諦めないプレー、優勝を決めた最後のPKにも、長い年月苦勞を共にしてきた多くの先輩や関係者の姿があることを選手たち自身が実感していたからこそ生まれたものだと感じています。

夏の大会はすでに始まっています。少しでも上に勝ち上がってほしいですが、冷静に心を整えて、今のチームを支えてきた今までの多くの風景を思い浮かべながら力を出し切ってほしいと願っています。



1学期を振り返って

1学期を振り返って

1の1 上島 梨菜

中学校生活が始まって4か月が過ぎようとしています。中学校生活は初めて経験することばかりで、緊張と驚きの連続でした。

まずオリエンテーション合宿がありました。友達と協力してウォークラリーをやったり、キャンプファイヤーでは自分たちで出し物を考えたりして、楽しむことができました。学年制作としてモザイクアートにも挑戦しました。中学校最初の行事で、みんなで一致団結し協力することができたことは、とてもよかったです。

次に部活動が始まりました。私はバレー部に入部しました。先輩方と共に県大会出場の目標を達成しようと、一生懸命頑張ってきました。私たちにできることは大きなかけ声を言ったりするだけですが、毎日充実した活動ができています。最後の最後まで、先輩方を一杯応援していきたいと思います。

中間テスト、期末テストでは、なかなか思うように勉強の時間配分ができず、勉強と部活動の両立の難しさを実感しました。しかし、幸中生として、『文武両道』めざし、これからもしっかりと努力していきたいです。

中学校は大変なことも多いですが、それだけやりがいもたくさんありました。夏休みからは部活動も本格的になります。また2学期には、体育大会や幸中祭があり、今まで以上に幸中生としての自覚と頑張りが必要になります。これからも最後まであきらめずに頑張っていきたいと思います。

1学期を振り返って

2の1 吹原まり子

私たち2年生に足りないものは、「厳しさ」です。それは、自分に対しても、周りに対してもです。そこで、先生方から「磨く」という課題を与えられました。自分を磨いていくこと、それは誰かに頼るのではなく、自分から動いていく事だと思います。このキーワードを元に何度も話し合いをして、意見をぶつけ合って決まった学年目標は、「切磋琢磨」です。この目標には、一人一人が努力をし、お互いがぶつかり合って高め合っていくという意味が込められています。自分の力を高めるための努力を惜しまない学年になっていきたいです。

職場体験学習では、働くことの難しさや大変さ、楽しさを学びました。そして、働くことは中途半端ではできないという大切なことを教えて頂きました。そこで、今、学年で育てているマリーゴールドをお世話になった事業所の方や、地域の方に届けようと考えています。命を育てていくことは簡単なことではないけれども、学年全員で水やりをし、感謝の気持ちを届けられるように大切に育てていきたいです。

私たち2年生は、今年の夏、一人一人が中心になっていくことがあります。それは、部活動です。今までずっと、先輩方にリードしてもらっていたけれども、これからは違います。一人一人が自覚を持って行動していかないとはいけません。そんな意味で、勝負となる今年の夏を“みんなで”の力で乗り越えていきたいです。そして、2学期以降の私たち自身の力となるようにしていきたいです。



学校の顔として

3の5 松坂 史規

僕にとってこの1学期は、3年生という責任の重さや大変さに改めて気づかされ、それと同時に、やりがいを感じることであった学期でした。3年生は学校の顔だと言われます。だから、普段から幸中の顔として、後輩の手本となるような行動をしていかなければならないと思ってやってきました。

まずは部活動。やく2年半、つらくても苦しくても、一生懸命仲間と支え合いながらやってきました。最後の夏を迎えるに当たり、一球への意識を高め、危機感をもって練習に取り組みました。この2年半やってきたことを生かして、残りの中学校生活を送って行きたいと思います。

もう一つは学習です。受験生としてこれまで以上に学習をやってきたつもりですが、やはり、部活動と勉強の両立は簡単ではないと実感しました。受験生として時間を有効に使い、少しの時間でも勉強をしようと思いやってきました。それと共に勉強への意

欲も高まりつつあります。

2学期には大きな行事もたくさんあります。中学校生活最後の体育大会や幸中祭を、3年生が中心となって動き、すべての面においてやりきったと言えるように頑張りたいと思います。

